２０２１．１０．１

１０月　ちとせだより

幼保連携型認定こども園
神戸ＹＭＣＡちとせ幼稚園

今年度２歳児さくらんぼ保育は、兵庫県下に発出された緊急事態宣言の影響により、９月１３日よりスタートしました。２学期当初に園児のみなさんには、「今度、新しく幼稚園にやってくるさくらんぼのお友だちがいるけど、どうする？」との問いに、「泣いていたら助けてあげる！」「困っていたら教えてあげる！」「一緒に遊んであげる！」など、それは、それは、頼もしい表情で話してくれました。実際の登園を迎えた時にどのように接しているのか？楽しみにしていました。

当日、初めて乗ったバスから降りてきたさくらんぼのお友だちの両脇には、在園児のお友だちがしっかり手を握ってあげて、ゆっくりとその子のペースで歩いている姿や、自力登園でお母さんと離れることの悲しさから大泣きしているところに４～５人の園児が駆け寄ってくれて、「一緒にお部屋に行ってあげる」と手を引っ張ってくれる姿や登園から１０時過ぎのお片付けの時間まで、一緒に遊んでくれている姿など、微笑ましく垣間見ることができました。

ついつい大人は、子どもたちに対して、人としてこうあるべきだと、「〇〇してあげなさい」「〇〇してはいけません」など口酸っぱく言葉で伝える場面は多くありますが、肝心なのは子どもたちが、その場面で頭ではなく、心で感じた思いを行動に表すことが大切です。「人にやさしくしなさい」と言っても、全員が全員やさしくできない時もあります。お母さんに怒られて、ちょっと気分がめげている時に人にやさしくする余裕も無い時もあります。言われたからしたのではなく、そうしようと思ったからしたことに価値があります。しかし、子どもたちにとってのやさしさは、必ずしも相手にとって心地良いものでないケースもあります。これだけあなたのことを考えて助けてあげたのに、、、「もう手伝わんとって！」「あっちいって！！」と理不尽な答えが返ってくることも、子どもたちの世界ではよくあることです。人のためにしたことが、必ず相手が喜ぶとは限らない現実に直面するのです。そういった経験も繰り返しながら、本当に相手が望んでいることは何なのか？逆に、自分がして欲しいこと、助けて欲しいことは何なのか？具体的に聞いたり、伝えたりするコミュニケーション能力が子どもたちの世界の中で、体験を通じて磨かれていきます。先生が、大人が、親が言葉で教えるのではなく、子どもたちが主体的に身につけていくものです。

コロナ禍にあって２０２１年度も後半にさしかかりましたが、ちとせ幼稚園として４学年のお友だちが集うようになった今、異年齢のお友だちとの様々な「ふれあい」を大切に見守っていきたいと思います。

【年主題】
『共に喜んで』～すべての歩みの中～

【年主題聖句】
一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、
一つの部分が尊ばれれば、すべての部分が共に喜ぶのです。
（コリント信徒への手紙Ⅰ　１２章２６節）

１０月主題　「ふれあう」

聖　句　「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」
（ルカによる福音書１０章２０節）